



パワー浜松ロータリークラブ週報 2015年3月10日号 本年度テーマ: Rotary Mind、Rotary Wayを確認しよう～ 心で感じて・考えて・活動しよう～

パワー浜松ロータリークラブ (2014-15 年度会長: 小林昭次)
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松 4307 号室
Tel: 053-452-0800 Email: info@power-hamamatsurc.jp
http://www.power-hamamatsurc.jp

創立: 2002 年 10 月 22 日 認証伝達式: 2003 年 4 月 29 日 スポンサークラブ: 浜松中 R C



第572回例会 3月10日 AM7:30～8:30

オークラクトシティホテル浜松3Fチェルシーの間

- 司会: 西尾文克 ●点鐘: 加藤ひとみ
- ゲスト: 菊池伸幸様、鈴木かおる様、中村真様
- 議事: クラブ研修リーダー「私学高校再生と若者教育」

<出席報告> 本日出席率62名 76, 54% 前々回出席率74, 07%

■会長挨拶

小林会長が
欠席されましたので私、加藤が代行を務めさせていただきます。



私は温泉が好きで温泉同好会にも参加させて頂いていますし、旅行に行くと温泉のあるお宿に泊まったりします。自宅では温泉代わりに入浴剤を使っております。

一番のお気に入りはこの「草津温泉ハップ」です。何年か前にいくつかの温泉地がこれを使用して不正が発覚し、その後は販売が自粛されたので最近はあまり出回っていません。これを一番のお気に入りで使用しておりますけれどニオイがすごくきついで、次の日はかなり自分が臭っています。

次に最近のマイブームはこちらです。「琥珀の湯」というアルカリ泉ですが、こちらは「モール泉」という地下に埋まっている古代の植物が染み出たというものを忠実に再現した入浴剤です。使ってみるとヌルヌルしてすごくいいです。実際に金沢の一軒宿でモール泉がありますが、そことほとんど同じ泉質でとてもいいものだと思いますのでぜひご紹介させて頂きました。

■幹事報告

- ・本日の配布物は、ガバナー月信3月号です。
- ・会員手帳内容に変更がある方は事務局まで連絡下さい。
- ・3月17日は予定者会議があります。

■委員会報告

ゴルフ同好会: 廣瀬会長

青空例会を4月26日浜名湖 CCにて行います。

■スマイル

小林昭次、加藤ひとみ、末広さくら:

今日は、菊池様早朝よりお越しくださりありがとうございます。人との関わり方、コミュニケーション、改めて色々考えたいと思いました。

金山土洲:

今日は菊池様、かおる様、中村様ご出席頂きお礼申し上げます。菊池様には実践に基づいた素晴らしい卓話を有難うございました。菊川南陵高等学校の益々のご発展を祈念しています。



鈴木かおる、中村真:

懐かしいメンバーの皆様にお会いでき幸せです。教育の現場はやりがいがあります。皆様のご協力を頂くこともあると思いますので、その時はぜひぜひご助言下さい。

長谷川隆是:

Japan Rotary Dayへ参加してきました。全国からロータリアンが集まり、RI会長ゲリー・ファンゴ夫妻をお迎えし、各地のRotary Dayの模様のレポートの後、晚餐会が開催されました。ネクタイとバッジをRI会長よりプレゼントされました。

熊谷真一:

医院改装に際して、株式会社形線 西尾さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。

■議事

「私学高校再生と若者教育」菊地 伸幸様

担当：クラブ研修リーダー

私が理事長を務める菊川南陵高等学校ですが、恐らくピンとこないと思います。以前の校名は国際海洋高校といいました。初代校長の井脇ノブ子の名前をだしたらお分かりになる方も多くいらっしゃると思います。

私が理事長を拝命してから 5 年が経つのですが、その前は空手道部の顧問をしていました。当時は全校生徒数が 30 余名。内 20 名はモンゴル、チベット、ネパールなどからの留学生、10 名は野球部の特待生でした。

当然経営は赤字で、教職員に対する給与の遅配が 7 か月も続き、14 億円もの負債を背負ってありました。そんな中でも教職員たちは実家からの仕送りなどを糧に留学生の教科書を買ったりと、自分の生活よりも教育を優先してくれていました。

ここで少し私自身のお話をします。私は小学生時代より極度に勉強が嫌いでした。学校は勉強をしに行くところではなく、遊びに行くところ。6 年生の最終学期に全ての教科書が全くの未使用であったほどです。

中学校に上がると全校テストがあり、順位は下から 2 番目でした。そんな中好きな子の感心を惹くために勉強に取り組み始めたのですが長年勉強などしたこともなくどうすればいいのか分かりません。仲の良い同級生 2 人を先生とし、彼らと一緒に高校に行こうと誓いを立て、そこからは勉強に励むようになりました。ですが、成績が上がってくると教員から誰の答案をカンニングしたのか、などと濡れ衣を着せられ大人に対する不信感から一時不登校になったりもしました。それを救ってくれたのもまた同級生でした。

社会に出てからは自身で起業をしましたがバブルと共にそれは弾けました。そんな時に周囲の非難から私を守ってくれたのは父親でした。その父親に恩返しするためには私は立派にならねばならないと思うようになりました。

これらの経験により、人間は学業不振であったとしてもどこでスイッチが入るか分からないと思うに至り、その為には目的や志を持つことの重要性を感じるようになりました。大人が子供を認めてあげる、大人と一緒にやってあげる、という事がその一助となることも学びました。

このような背景があり、私は火中の栗を拾うが如く、本学の理事長の任を引き受けることにしたのです。



高校とは社会に出る一歩手前の教育機関であると私は定義しています。そのためには子供達の承認欲求を満たしてあげながら、例え勉強ができなくとも挨拶ができる、と言ったような基本的にコミュニケーション能力を育むことが重要であると考えています。

現在、全国には 10 万人以上の中学校の長期欠席者がおります。本学においても 300 名の生徒の内 60 名は中学時代に長期欠席者でありました。

そのような子供達が仲間と助け合い、コミュニケーション能力を磨く中で社会に出ていく一歩手前の教育を受けています。

前述した通り多額の負債がある中で本学を背負った私は本学の商品価値を高めることに腐心してきました。そのためにはどんな教育をし、どんな大人を育てれば良いのか、それが前述したこととなります。

本学には応援企業の会というものがあります。これは年間 5 万円の寄付をして頂くと同時に、1 コマの授業を担当していただくというものです。そこでは企業紹介や職業紹介など、これから世に出ていく本学生徒たちに世の中の実際を教えて頂き、また、同時に企業側からも将来の自社人員の種を見つけて頂く、という試みです。

前述の通り、社会に通用する人間を高校からでも育てていくという趣旨で、成績に拠らない生徒集めと教育をしています。その結果、中学時代は不登校であった生徒が企業さんからの内定指名一番乗りを果たすなど、着実に実績を上げております。

■ハッピーバースデー

2 月：田村会員、小澤会員

3 月：熊谷会員、岩崎会員、山本会員